

# 地域公共交通計画について

「新たな移動手段を考える集い」

R7.2.15(土)13:30～

取手市福祉交流センター

取手市都市計画課

## 地域公共交通計画（地域公共交通活性化・再生法に基づく）

少子高齢化と人口減少が進み、既存の公共交通の維持が難しくなっている中でも、地域の人々の生活・活動を支える旅客運送サービスを持続可能な形で（=将来も安定的に）確保していくことを目指す計画

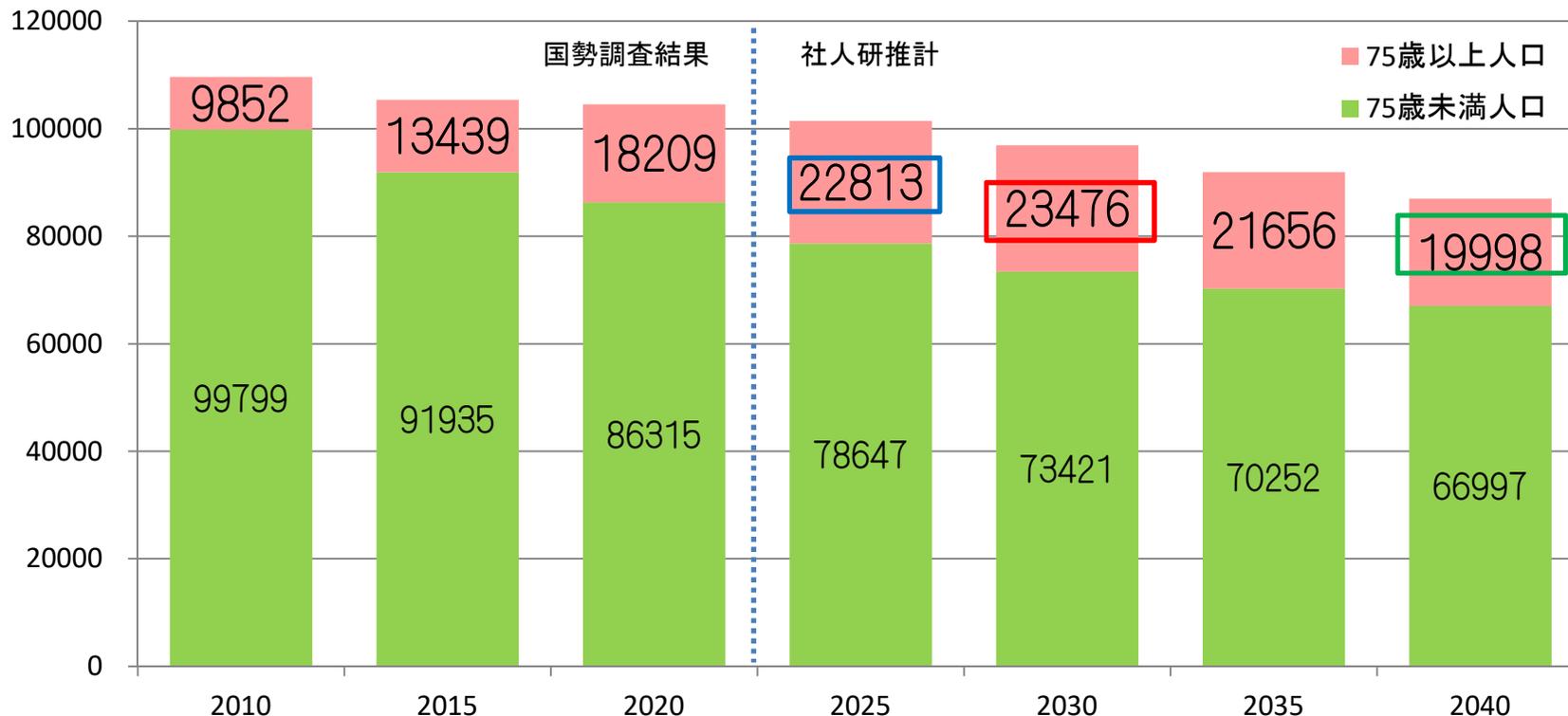
### 背景（全国的な傾向）

- ・少子高齢化と人口減少がますます進んでいく
- ・これまでマイカーの普及（モータリゼーション）で減少していた公共交通の利用者は、今後は人口減少を主因として減少していく
- ・その一方で、マイカーを運転できない高齢者等の増加によって公共交通の必要性・重要性は高まっていく
- ・交通事業者は、利用者の減少、運転士不足、物価・燃料費高騰などにより、経営が困難になってきている（全国的な廃線・減便・廃業ラッシュ）

### ◎取手市は今年度に計画策定に着手

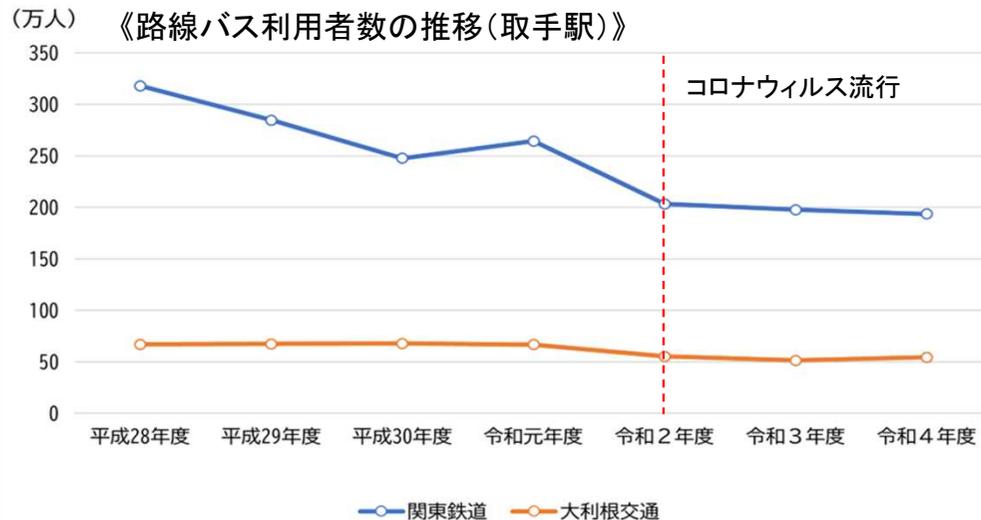
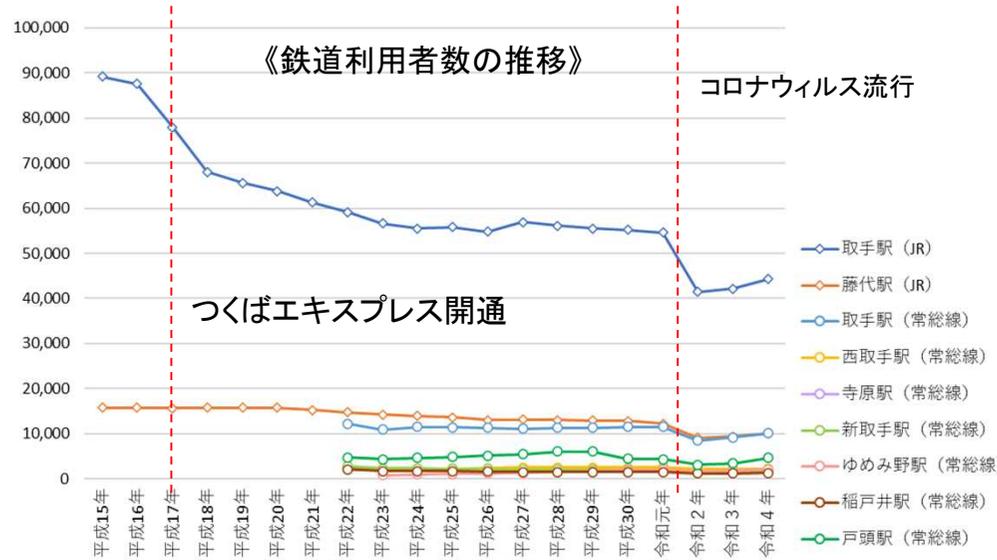
2024（令和6）年度	2025（令和7）年度	2026（令和8）年度
市内の調査（アンケート・ヒアリングなど）	計画書作成・パブリックコメント・公表	計画に基づき具体的な事業などを開始

# 取手市の人口推計



- 市の人口の減少は続き、2030年までに10万人を切る推計が出ている。
- 2025年(10月1日推計)の75歳以上の人口は22,813人で、10年前に比べて9,374人の増加となる見込み。(70%増)
- 75歳以上の人口は2030年の約23,500人でピークを迎えた後、減少に転じ、2040年に約20,000人となる。その後しばらくは同程度で推移する。

# 交通事業者の状況



## 《鉄道》

●常磐線の混雑緩和を目的に計画されたTXが2005(平成17)年に開通し、JR取手駅の乗降者数は大きく減少。2020(令和2)年に始まったコロナ禍の影響や通勤・通学利用の減少もあり、現在は20年前の約半分の乗降者数となっている。

●JR藤代駅や関東鉄道常総線の各駅の乗降者数もコロナ禍前の人数に回復していない。

## 《路線バス》

●現在、取手駅には関東鉄道のバスが5路線(2024(令和6)年3月までは6路線)、大和交通自動車のバスが1路線乗り入れている。

●取手市の路線バス網は主に通勤・通学手段として発達してきた経緯があり、少子高齢化・人口減少等により利用者は長らく減少傾向にある。

●コロナ禍の影響は大きく、利用者は回復していない。

# 交通事業者の状況

**2024年問題** = 2024年4月1日からの**運転士の労働時間規制の強化**  
⇒**運転士不足**が一気に顕在化 ⇒全国的な路線バスの減便・廃線・廃業  
⇒取手市内を運行するバスも例外ではなく大きな影響を受けている

## 関東鉄道路線バス

《2023年12月～2024年4月の変更》

- ・取手駅～戸頭駅 8便 → 0便
- ・取手駅～井野団地循環 83便 → 69便
- ・取手駅～江戸川学園 171便 → 139便

その他の路線も、減便、最終便の時刻繰り上げなど影響大

(※上記表示内容はいずれも平日1日当たりの便数)

## 取手市コミュニティバス

《2024年4月の変更》

運転士の1日当たりの労働時間の上限に合わせて各ルート<sup>の</sup>運行時間の短縮

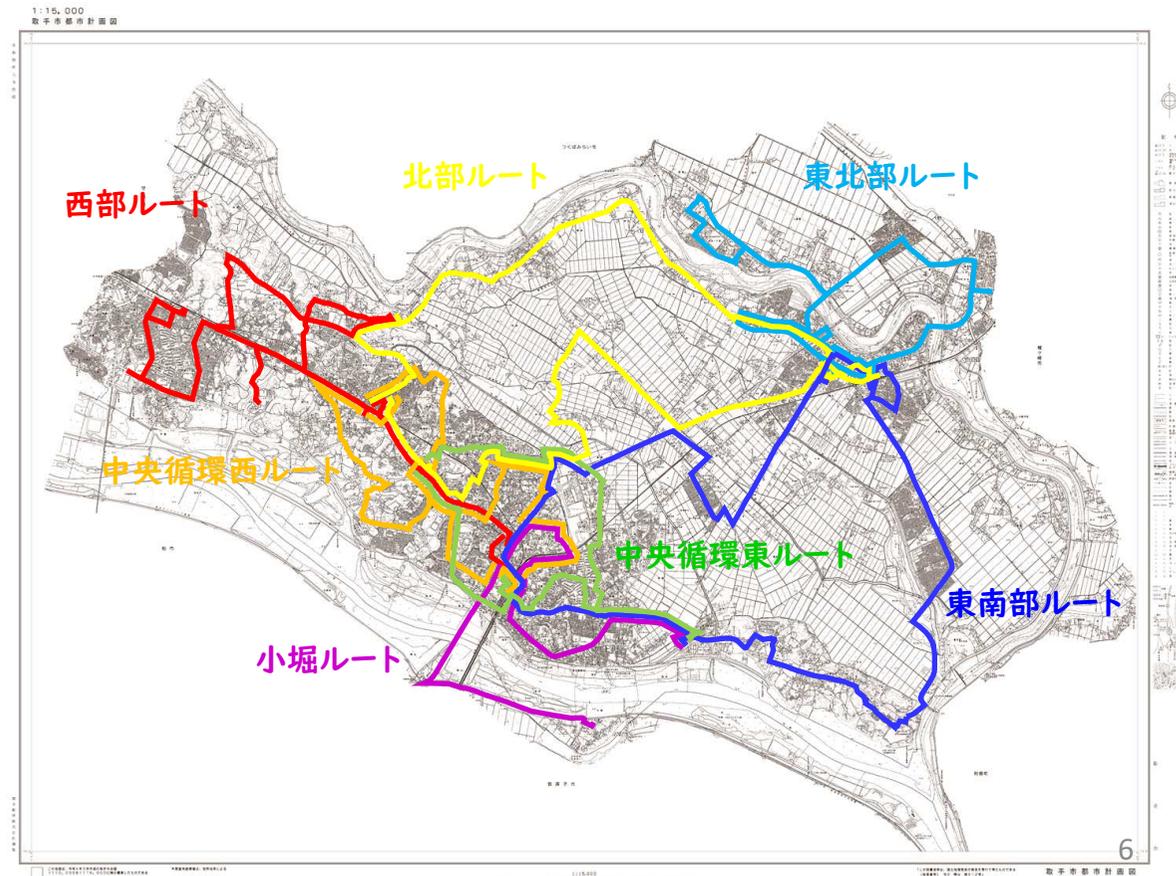
- ・全7ルート合計で1日64便→60便(4減)  
(中央循環西ルート1減)  
(小堀ルート3減)
- ・路線バス「取手駅～戸頭駅」の廃線をかばるため西部ルートをウェルネスプラザ(取手駅前)まで延伸

# 取手市コミュニティバスの状況

- 7ルートを7車両で運行。1乗車150円。70歳以上に3か月3000円の定期券販売。
- 令和5年度の利用者数**15万6000人**、運賃収入を差し引いた経費**1億1800万円**。
- 小型のバス車両で運行しているが、道路の幅員や地形などによって**進入できない住宅団地や集落が市内各地にある**。
- **バス運転士が不足している**ので、ルートの増や増便は現状、難しい。

バスのみではこれ以上  
市民の移動の充実を図  
ることは難しい

公共交通として新しい  
移動手段を導入しなけ  
れば、ニーズの変化・  
増加に対応できない



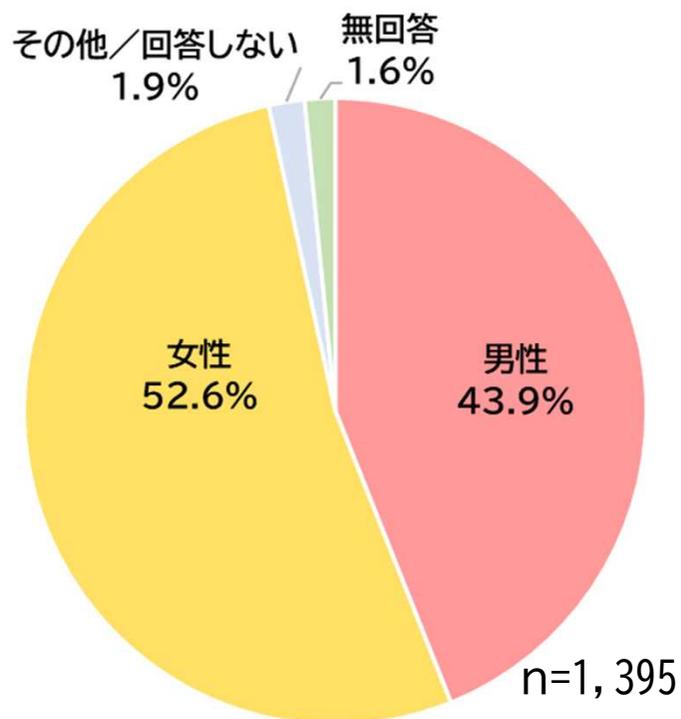
# 市民アンケートの集計結果から

実施期間：2024（令和6）年9月～10月

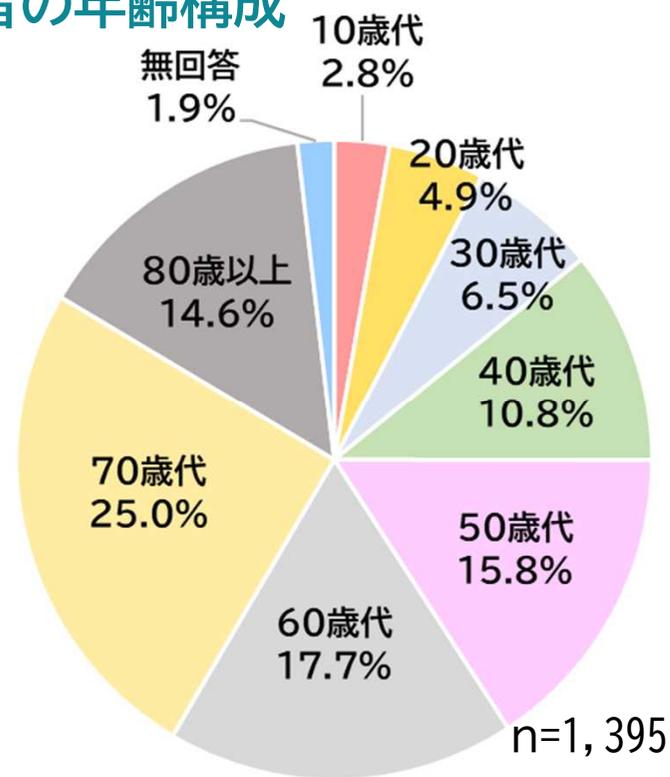
対象者：市内在住の15歳以上の市民3,000人（無作為抽出、郵送発送・回収）

本報告の対象となる回収票数：1,395票（回収率：46.5%）※その後追加42票有り

## 回答者の性別

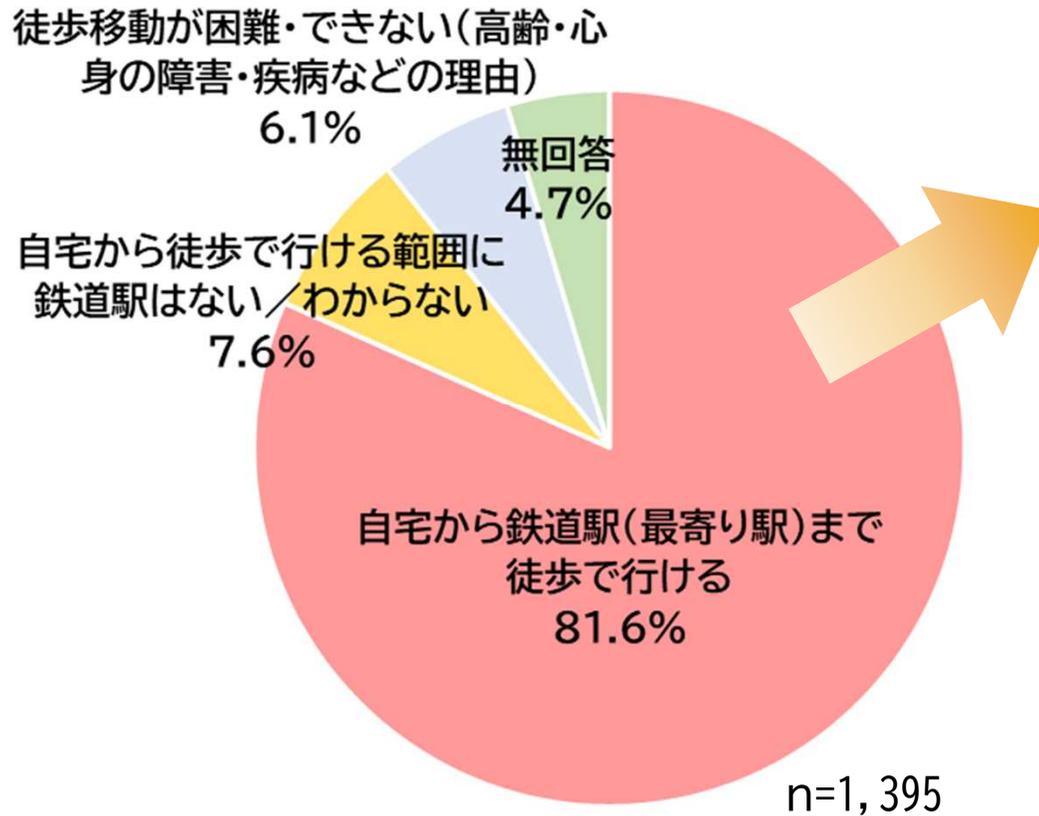


## 回答者の年齢構成



# 市民アンケートの集計結果から

## 自宅から鉄道駅までの徒歩移動

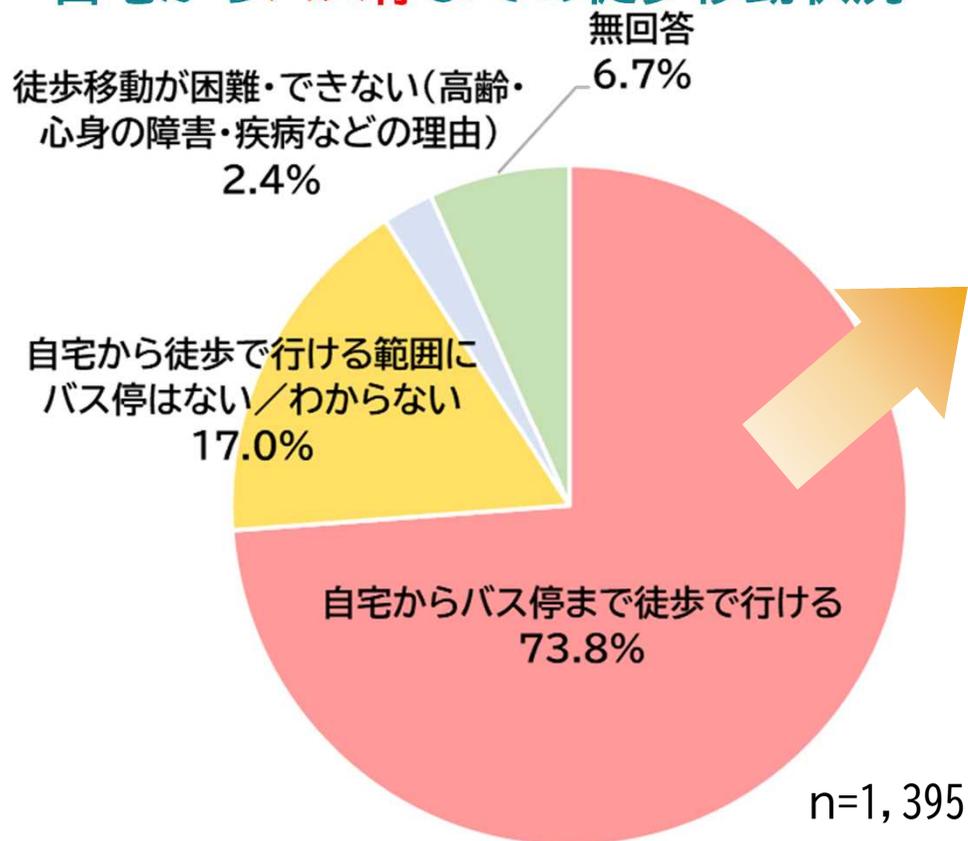


## 徒歩移動可能な回答者の最寄り駅

	選択肢	回答数	割合
1	取手	401	35.2%
2	藤代	271	23.8%
3	戸頭	96	8.4%
4	新取手	75	6.6%
5	ゆめみ野	72	6.3%
6	寺原	68	6.0%
7	西取手	64	5.6%
8	稲戸井	54	4.7%
9	龍ヶ崎市(佐貫)	20	1.8%
10	湖北	1	0.1%
11	南守谷	1	0.1%
12	守谷	1	0.1%
13	無回答	15	1.3%
	合計	1139	100.0%

# 市民アンケートの集計結果から

## 自宅からバス停までの徒歩移動状況

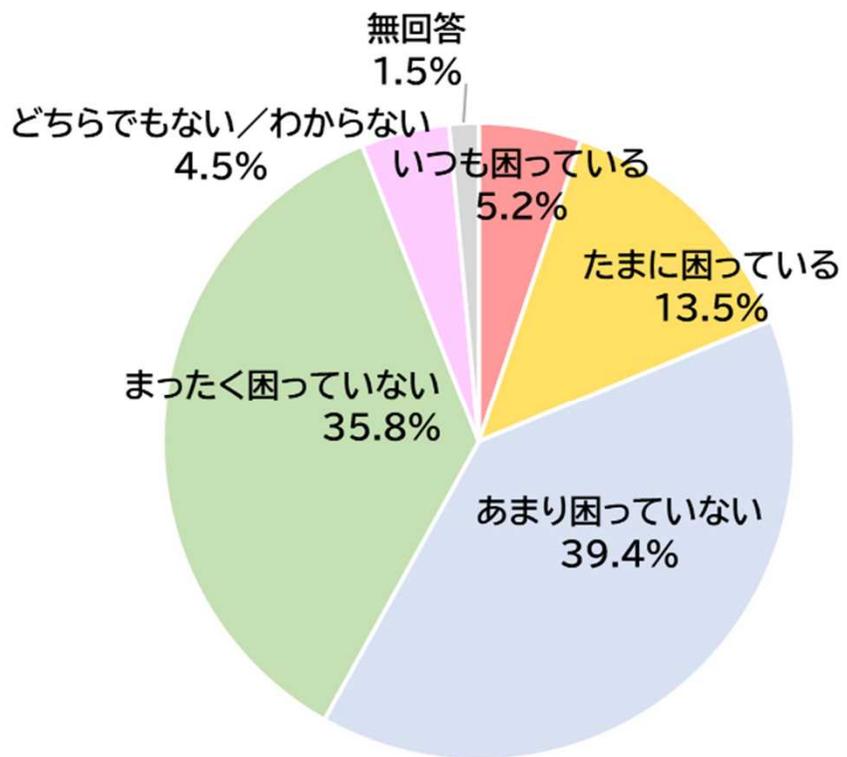


## 徒歩移動可能な回答者の最寄りバス停までの所要時間

選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
0分	3	0.3%	10分	156	15.1%
1分	93	9.0%	11分	1	0.1%
2分	84	8.2%	12分	8	0.8%
3分	142	13.8%	13分	7	0.7%
4分	22	2.1%	15分	30	2.9%
5分	357	34.7%	18分	1	0.1%
6分	22	2.1%	20分	10	1.0%
7分	41	4.0%	25分	4	0.4%
8分	26	2.5%	30分	5	0.5%
			無回答	18	1.7%
			合計	1030	100.0%

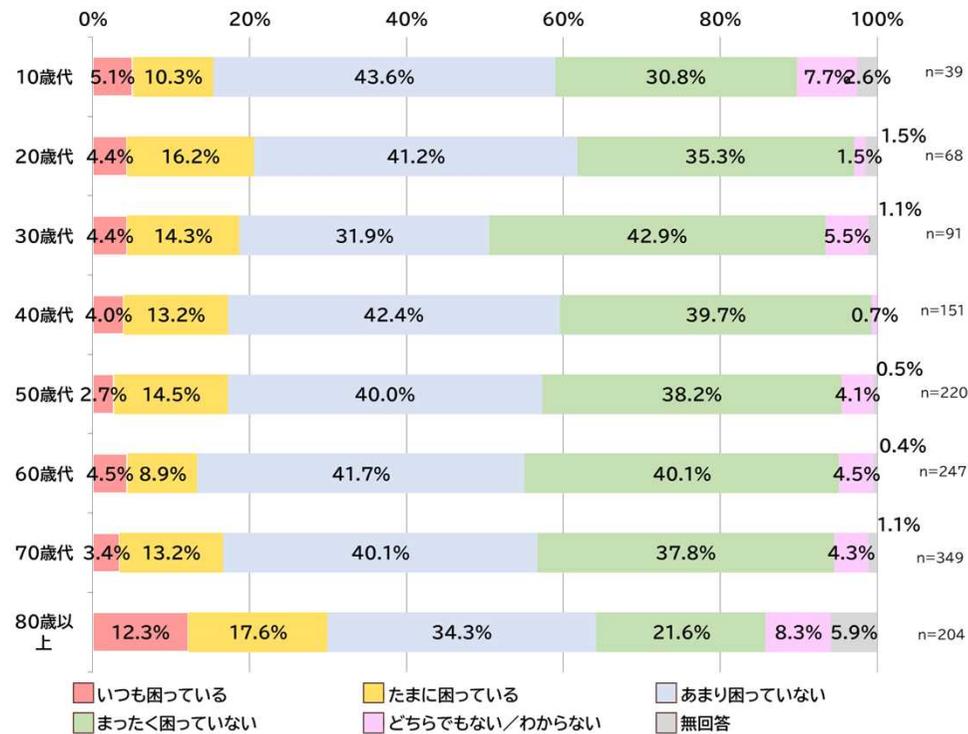
# 市民アンケートの集計結果から

## 日常生活の移動（外出）での 困難の有無



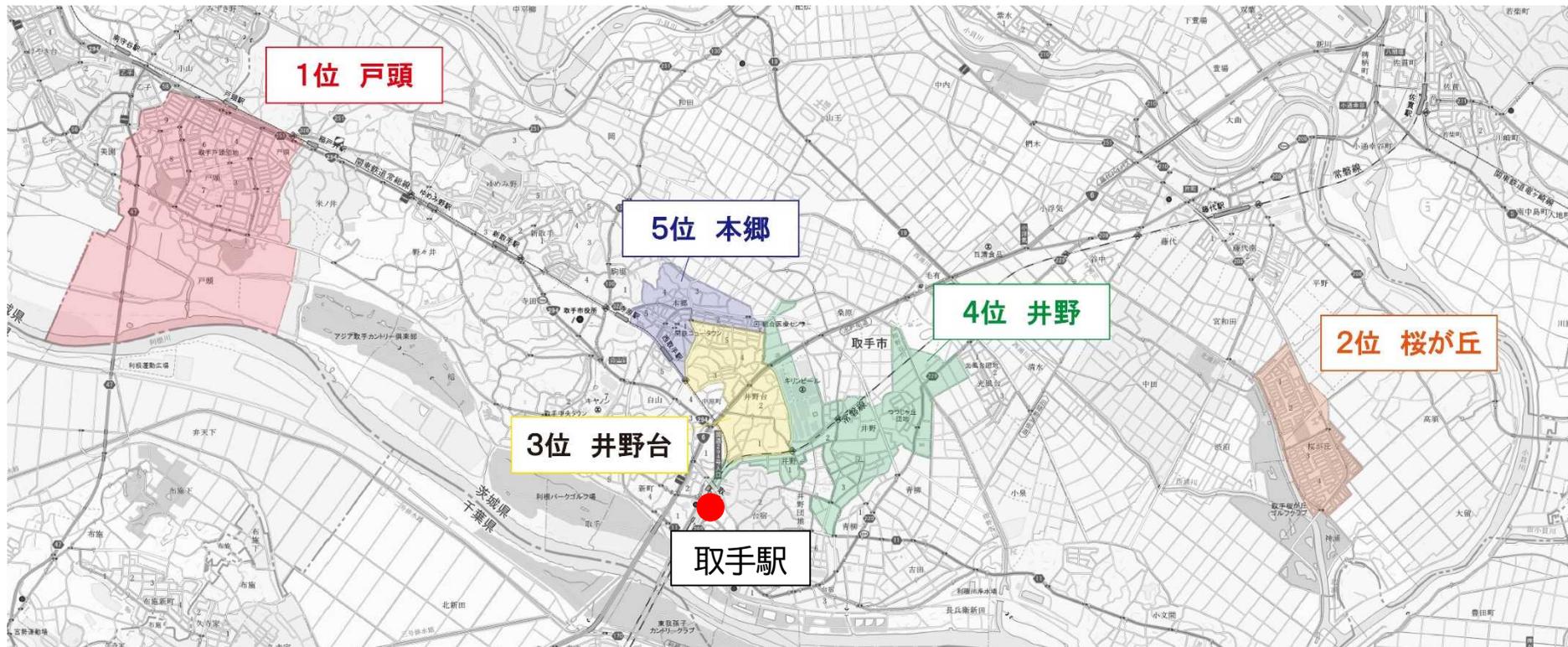
n=1,395

## クロス集計：年齢別の移動での困難の有無



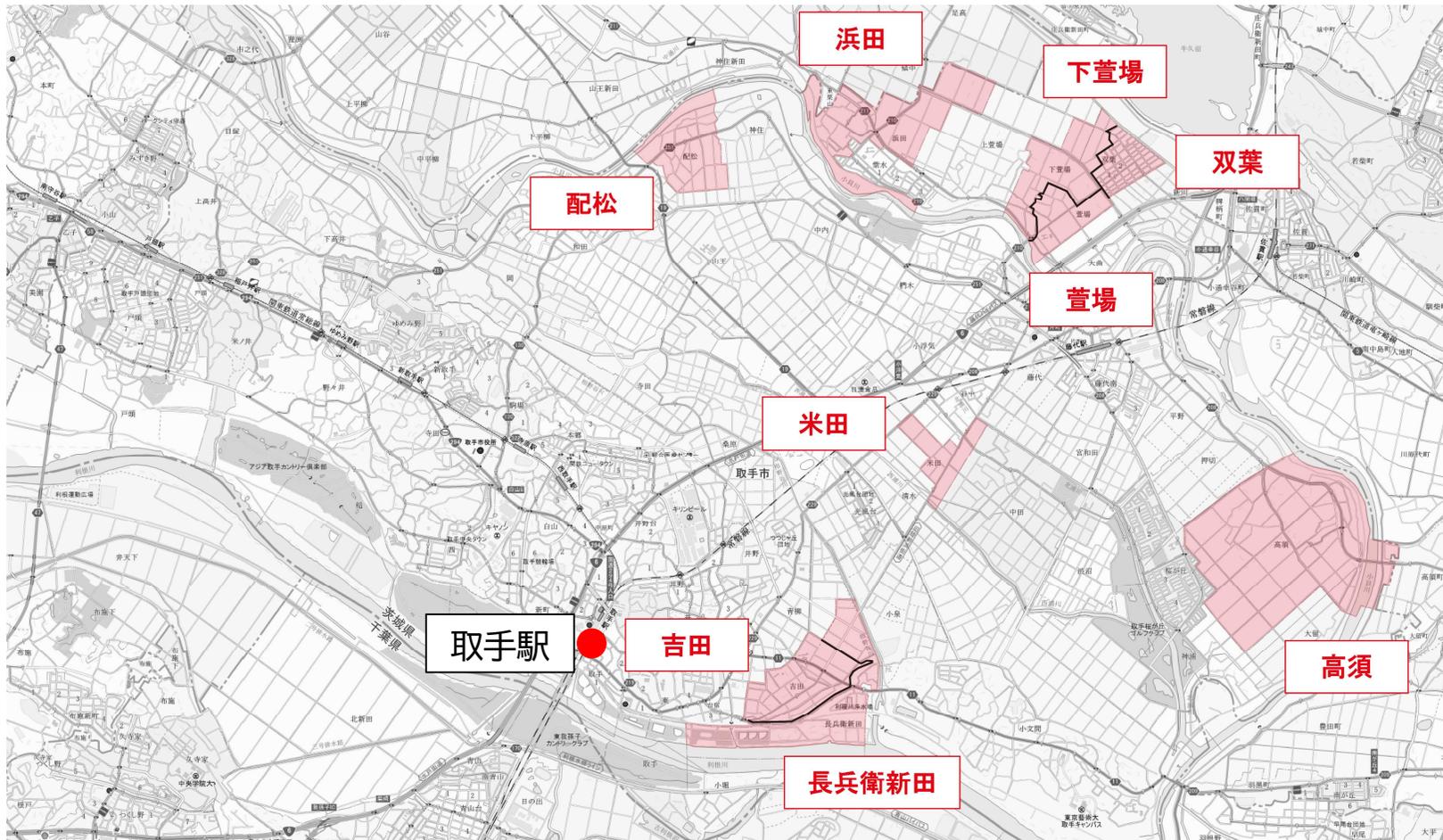
# 市民アンケートの集計結果から

「いつも困っている」、「たまに困っている」回答者が多い地域



# 市民アンケートの集計結果から

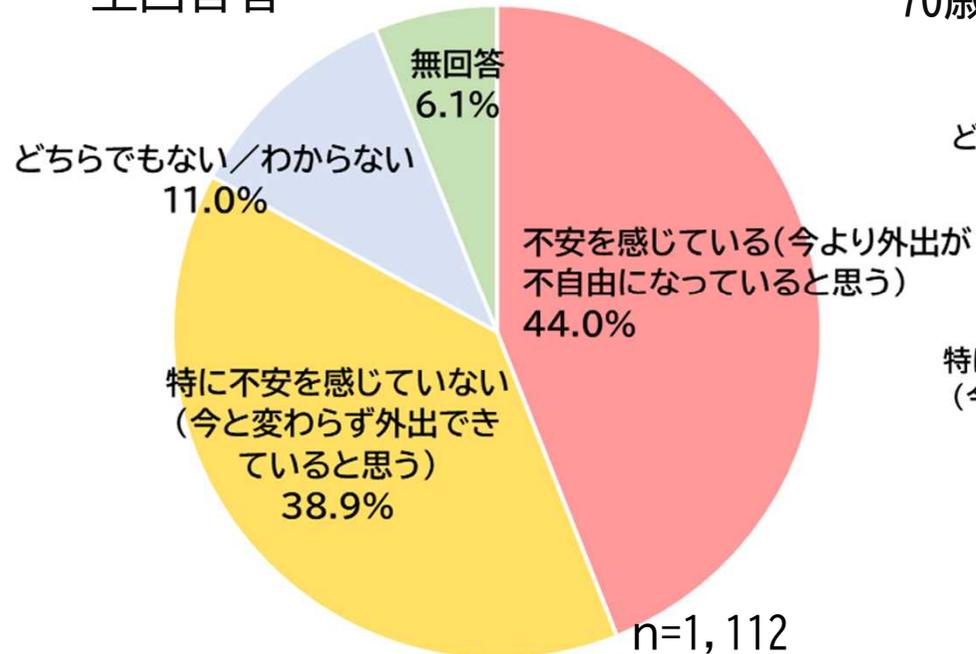
「いつも困っている」、「たまに困っている」の回答率が高い地域  
※ 「いつも困っている」、「たまに困っている」を選択した回答者が30%以上の地域



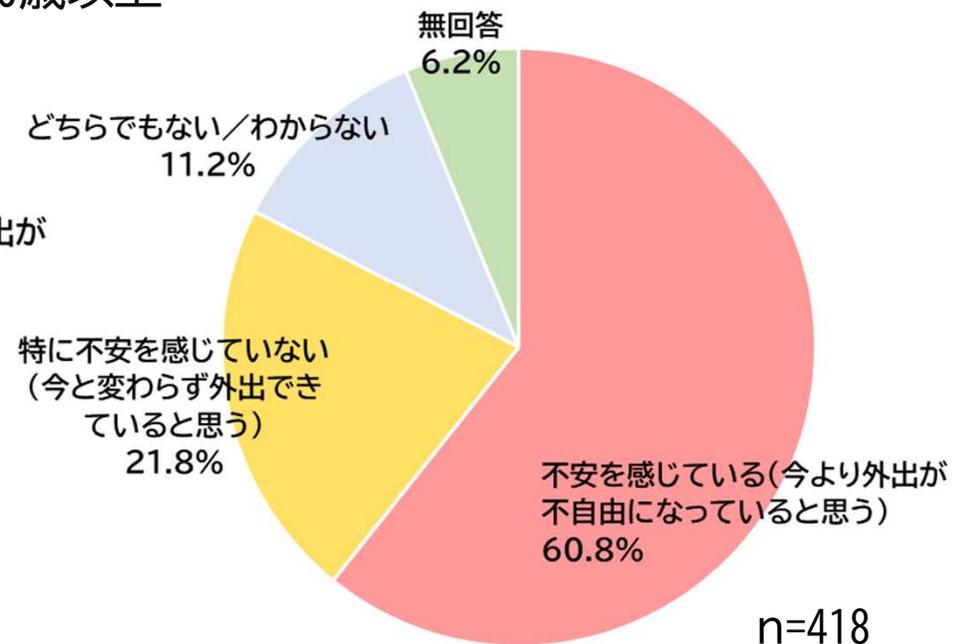
# 市民アンケートの集計結果から

近い将来（5～10年後）の移動（外出）の不安の有無  
（前問で「あまり困っていない」、「まったく困っていない」、  
「どちらでもない/わからない」の選択者のみ回答）

全回答者

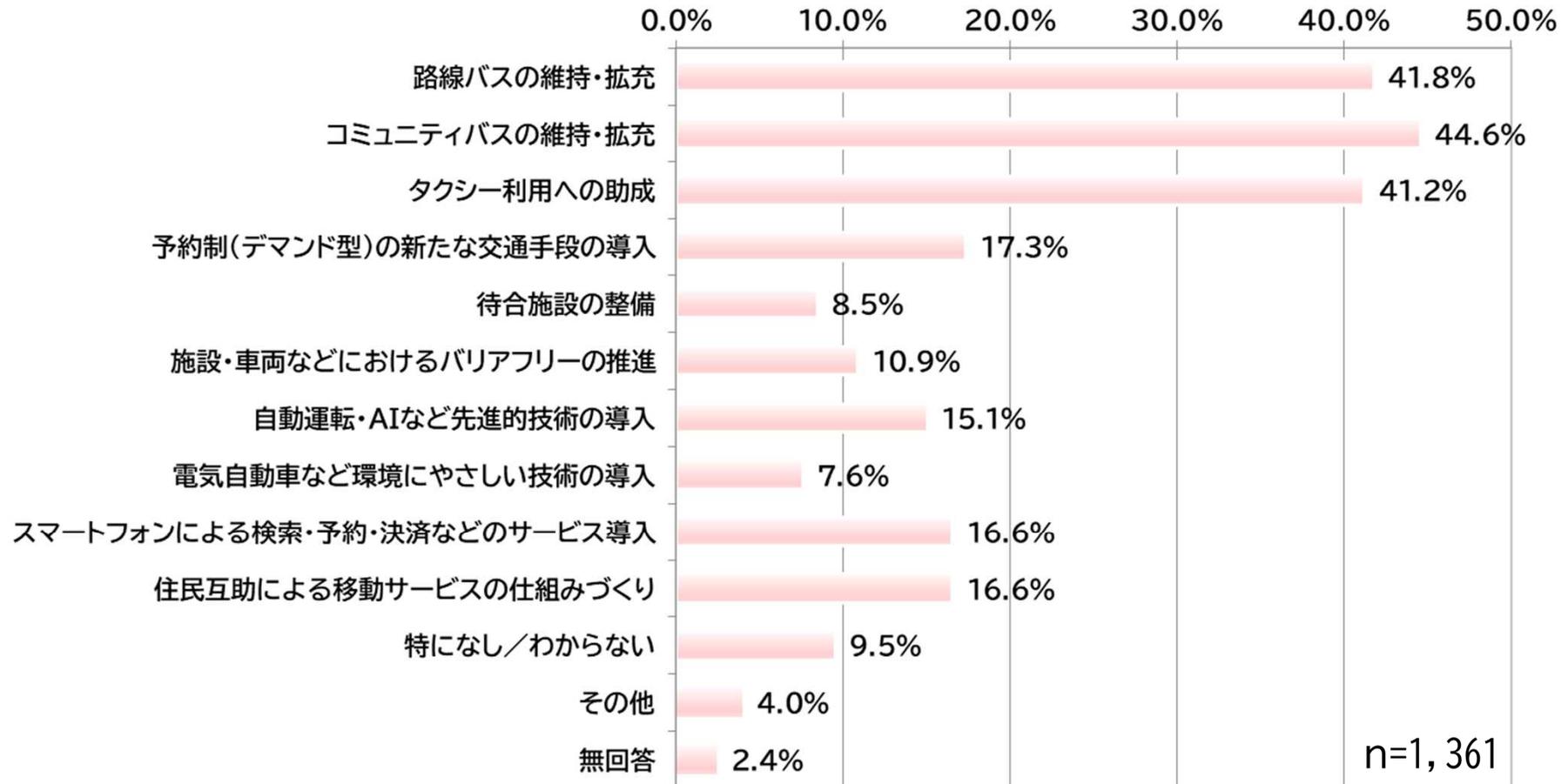


70歳以上



# 市民アンケートの集計結果から

## 取手市が公共交通において力を入れていくべき項目（複数回答）



## 地区ヒアリング

実施期間：2024（令和6）年10月～

市内各地区の住民に対して、地区の交通の現状、課題、要望などを聞き取り

- コミュニティバスの日中の便数を増やしてほしい。（買い物に利用しにくい）
- 団地内の入り込んだ所にバス停を設置してほしい。
- 地区では高齢者単身世帯が増加しているので、その移動手段が必要。
- 免許返納を考えるが、現在の交通環境だと不安を感じる。
- 高齢者は体調不良で病院に行くとき、乗り換えがあるとつらい。家から直接病院に行きたい。
- 近所同士で乗せてもらうことがあるが、申し訳ない気持ちもある。
- タクシーを使うときがあるが、前日予約が必要になっている。
- デマンドタクシーは需要があると思う。しかし、例えば自治会館などに集まって相乗りで利用するような形は、自治会館まで歩くのが困難な人が多いので難しいと思う。（歩ければコミュニティバスを使っている。） などなど

マイカーで移動できない高齢者は急激に増加中

公共交通事業者の経営は厳しさを増している

バスの運転士は不足している

コミュニティバスを拡充するのはいろいろ制限がある

各地区で高齢者に合った移動手段が求められている

これらの課題を解決するため・・・



今ある交通資源を総動員して今後の移動手段を確保  
公共交通として市の現状に適した移動手段を検討

